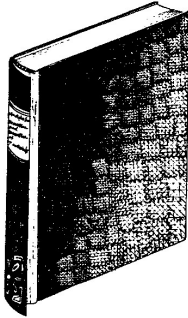


## ＜背の取れた本の修理＞（簡便な方法）

ハードカバーの資料で、溝の部分が切れかかっていたり、中身はしっかりしているのに、背の部分が取れてしまったりしているものがある。その修理方法としては背の部分を作り直す「つなぎ表紙」の方法があるが、ここでは、さらに簡便な方法を紹介する。

強度が劣ることを考慮して、この方法による修理を選択する必要がある。

なお、使用する糊は濃い目の混合糊である。



①背が取れかかっているものは、カッターナイフやハサミを使って、溝の部分で表紙と切り離す。

（片側だけでよい）

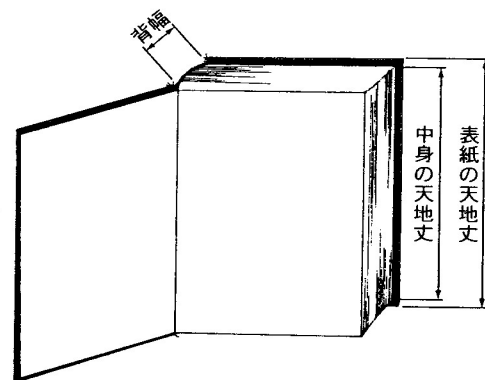
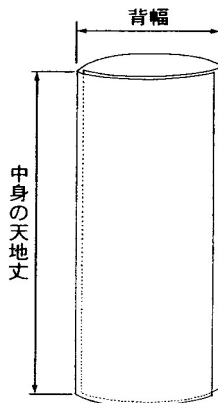
あるいは、②で作成する「クータ」が背に貼れる状態にする。

中身の背の部分で、剥がれかかっているところは取り除いてしまうか、きれいに糊付けしておく。花布もきちんと付けておく。

また、取れた（取れかかった）背の裏についてもきれいにしておく。薄くなってもよい。

②クータを作り、中身の背に貼る。

クータは中性紙（なるべく強いもの）で作る下図のような筒を平らにしたものである。背幅の3倍の紙を三つ折りにして、重なる部分を貼り合わせて作る。



クータの片面（一重の側）に糊をまんべんなく塗って、背に貼る。

また、クータのもう一方の面に、取れた（取れかかった）背を貼る。

その上から白紙を当てて、ヘラなどを使ってよく擦り、しっかり接着する。

その後、よく乾かす。